

第 21 回 関西アルコール関連問題学会開催にあたって

和歌山大会長 小野 善郎

和歌山県精神保健福祉センター所長

このたびは第 21 回関西アルコール関連問題学会を和歌山の地で開催させていただけることをたいへん嬉しく思うとともに、各地から参加される皆様を心から歓迎申し上げます。

私たち人類とアルコールとの付き合いには非常に長い歴史があり、私たちはアルコールのもたらす生活の豊かさや潤いとともに、アルコールのもたらすさまざまな負の側面との闘いも余儀なくされてきました。しかし、平成 26 年 6 月 1 日に施行されたアルコール健康障害対策基本法は、単に飲酒を規制するだけでなく、一人ひとりの健康問題として、国や地方公共団体とともに、あらゆる関係者が協力して取り組む基本的な枠組みを示した点において、私たちのアルコール関連問題への取り組みの新たな一歩と言えるでしょう。これからの対策が大きく前進することが期待されます。

このようなアルコール問題への新たな時流の中で迎える和歌山大会は、「広がれアルコール健康障害対策『紀』本法」をテーマとして、この法律を地域の関係者に皆さんに知っていただくとともに、実効性のあるアルコール健康障害対策推進計画の策定に向けた交流の場になることでお役に立てればと思っています。そのためにも、今大会では実践的なワークショップを充実させて、アルコール問題への経験の少ない医療・保健・福祉関係者にも役立つ内容をたくさん企画させていただきました。新しい法律の理念を知るだけでなく、具体的な実践に触れることで、アルコール関連問題への取り組みへの機運が高まる機会になればと思います。

温暖な気候の和歌山県とはいえ、寒さの厳しい時期ではありますが、2 日間の大会が参加されるすべての皆様にとって、新たな時代への有意義なステップとなることを願っています。

第 21 回 関西アルコール関連問題学会和歌山大会 スケジュール

平成 27 年 1 月 23 日（金） 於：和歌山ビッグ愛

9:00～	受付
10:00～17:00	ワークショップ①『CRAFT ワークショップ』
13:00～17:00	ワークショップ②『ブリーフ・インターベンション&HAPPY プログラム』
14:00～17:00	ワークショップ③『久里浜医療センターにおける新しい認知行動療法』
13:00～13:10	開会式
13:15～16:45	基礎講座 『正しく、新しく知ろうアルコール関連障害』
18:45～20:45	懇親会

平成 27 年 1 月 24 日（土） 於：和歌山ビッグ愛

9:00～	受付
9:15～12:00	講演会 『アルコール依存症治療と回復について』 分科会 1 『災害とアルコール問題』 分科会 2 『和歌山のアルコール医療を考える』 分科会 3 『処方薬依存をめぐって』 分科会 4 『みんなで考えよらよ！～家族支援！』 分科会 5 『就労を含めて、依存症の人々の多様な生活課題を探る』
10:00～16:00	ワークショップ④『動機付け面接法』
12:00～13:00	ランチョンセミナー 『アルコール中毒-アルコール依存症-アルコール症- アルコール使用障害：診断概念と治療の変遷』 共催：日本新薬 ※弁当は先着順となります
13:00～14:00	ポスターセッション
14:10～16:40	公開講座『基本法推進の集い I N 和歌山紀の国、和歌山で広げよう、 アルコール健康障害対策基本法』
16:40～17:00	閉会式

※部屋割りは当日発表します

ワークショップ①

1月23日（金） 10:00～17:00

『CRAFT ワークショップ』

－困っている家族に必要なスキルを提供できるプログラム－

治療に抵抗する患者について相談に来た家族に対して「患者が診察に来なければどうしようもない」ではなく「どうやったら患者が診察に来るか、一緒に考えましょう。成功率の高い方法があります」と言える支援こそ求められている。

CRAFT ; Community Reinforcement And Family Training (コミュニティ強化法と家族トレーニング) は米国でメイヤーズらによって開発され、カナダではギャンブル依存症の家族にも応用され、わが国ではひきこもりの家族支援として厚労省のガイドラインにも提示されている。エビデンスも蓄積されており、患者の治療導入率比較研究では、家族に自助グループへの参加を勧めるやり方の成功率が約 10%、古典的な直面化技法である Johnson モデルの成功率が約 30%であるのに比べ、CRAFT の成功率は 64% を越えている。そして、たとえ患者が治療に結びつかなくても、家族自身がこれまでの行き詰まった考え方や生き方を再検討する機会となり、家族自身のメンタルケアにも有効なプログラムである。藍里病院での 1 年半の実績も同様の結果であった。CRAFT では家族こそがアルコール問題に対して最も強い影響力を持っていると考え、これまで家族がやってきたがうまくいかなかった問題への対応に代わる方法を提示していく。小言、懇願、脅し、説教の代わりに患者と家族の肯定的なコミュニケーションを目指し、患者のストレスを軽減させることによって患者の行動に変化を与える技法である。アルコール問題に限らず、治療に抵抗する患者へのアプローチとして活用できる。参考文献には、スタッフ向けに「CRAFT 依存症患者への治療動機づけ—家族と治療者のためのプログラムとマニュアル」、家族向けに「CRAFT 依存症家族のための対応ハンドブック」(ともに金剛出版)がある。藍里病院では日本の現状に合わせてアレンジしたワークブックを独自に作成しており、本ワークショップ参加者にそれぞれの現場で CRAFT プログラムが展開できるよう、十分に情報と技術を提供したい。

《定員》60名（事前申込みで先着順、当日参加は定員に空きがあるときのみ）

《参加費》学会参加費の他に、追加料金として2,000円が必要となります。

《講師略歴》

吉田 精次

1981年、徳島大学医学部卒。2001年から、久里浜アルコール症センター、国立精神神経センター、肥前療養所、ロスアンジェルス・マトリックス研修などでアルコール・薬物依存症臨床医研修を受講し、依存症治療を開始。

刑務所における薬物離脱教育を6年間担当。2007年からギャンブル依存症の治療も開始。現在は依存症全般を専門として治療にあたっている。依存症問題に悩む家族のための強力な援助プログラムであるCRAFTを全国的に広める活動を行っている。アルコール問題の2次予防活動としてHAPPYプログラムを地元で開始。小学校6年生を対象に、ダルクのメンバーと一緒に「アルコール・タバコ・ドラッグ」の授業も行っている。藍里病院 副院長、徳島県断酒会・顧問、日本アルコール関連問題学会・評議員、徳島アルコール関連問題研究会・代表、四国ギャンブル問題を考える会・世話人、四国CRAFT研究会・代表、徳島自殺予防面接技法研究会・世話人、徳島ダルク支援会・世話人

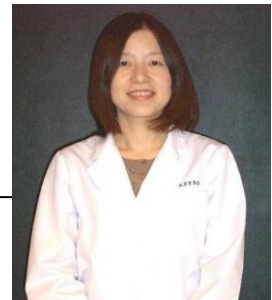


小西 友

2001年、徳島文理大学大学院臨床心理学コース修了

。2カ所の精神科病院勤務を経て、2008年より藍里病院に勤務し、現在に至る。

カウンセリングや集団心理療法、心理検査などの精神科臨床業務のほか、アルコール依存症の治療プログラムとしてアサーショントレーニングやCRAFT、女性ミーティング等を担当している。また自殺予防委員、衛生管理者として院内のメンタルヘルスや自殺予防に取り組み、活動している。



【講師】：吉田 精次（藍里病院 医師）

小西 友（藍里病院 臨床心理士）

ワークショップ②

1月23日(金) 13:00~17:00

『ブリーフ・インターベンション&HAPPYプログラム』

本年6月よりアルコール健康障害対策基本法が施行され、アルコール依存症者に向けた対策とともに、生活習慣病や、飲酒運転、うつ・自殺などとも密接に関連する多量飲酒者対策が、今後策定される基本計画に盛り込まれるものと思われます。多量飲酒者に対する飲酒量低減法としてのブリーフ・インターベンション(Brief Intervention、以下BI)は、欧米諸国では1980年代から医療現場などで数多くの研究が行われ、その有効性はすでに確立されていると言えます。わが国でもその飲酒量低減に対する有効性を確認する研究が相次いで報告されており、平成25年度からは特定健診・特定保健指導プログラムにBIが減酒支援として取り入れられました。

本ワークショップでは、BIの技法の基礎と実践を学び、その補助ツールであるHAPPYプログラムと集団節酒指導プログラムを、職域、地域、医療の現場で多量飲酒者に対する減酒指導に使用できるようにすることを目的としています。なお、参加した方には、HAPPYプログラムと集団節酒指導プログラムの使用が認可されます。

《定員》60名(事前申込みで先着順、当日参加は定員に空きがあるときのみ)

《参加費》学会参加費の他に、追加料金として2,000円が必要となります。

《講師略歴》

武藤 岳夫

平成12年佐賀医科大学卒業

熊本大学医学部附属病院神経精神科、国立病院機構琉球病院を経て、

平成17年より、国立病院機構肥前精神医療センターに精神科医師として勤務。

平成20年より同センターアルコール・薬物依存症病棟医長、アルコール・

薬物診療グループ長。平成24年より同センター臨床研究部行動科学研究室長(兼任)

平成25年4月より同センター精神科医長



【講

師】: 武藤 岳夫 (国立病院機構肥前精神医療センター 医師)

ワークショップ③

1月23日(金) 14:00~17:00

—最新ARPワークショップ—

『久里浜医療センターにおける新しい認知行動療法』

久里浜医療センター（以下当センター）では入院加療するアルコール依存症患者に対して、アルコール・リハビリテーション・プログラム（以下ARP）を行っている。成年期患者の場合、離脱症状の管理・治療、内科的精査・加療等を中心とした解毒治療（1期治療）の後に、約7週間をかけて、認知行動療法（以下CBT）、アルコール勉強会、自助グループへの参加・見学、作業・運動療法・フィールドワーク、瞑想、家族会、外泊訓練、医師・看護師・栄養師・薬剤師等による個人面談、説明会などを組み合わせたプログラム（2期治療）を行う。数人単位で行う集団精神療法の一つであり、自らの飲酒問題や思考、断酒のための具体的方法などを自己洞察させ、飲酒に至る認知、行動を修正し、退院後の断酒継続という行動変容を目的としている。当センターでは2000年よりCBTが導入しているが、2011年より多職種からなる検討委員会を立ち上げ、他の治療法も参考にして新しいCBTを作成した。新しいCBTは全部で約10セッションあり、その概要は、前半は飲酒問題の振り返り、後半は飲酒の誘惑、飲酒欲求への対処、再飲酒時の適切な対処、日常生活（外泊、退院後など）の過ごし方などである。当センターでは、入院患者数名とリーダー（医師など）とコリーダー（看護師など）のグループでCBTを行っている。

当日のワークショップでは、新しいCBTのワークブックを配布して、前半はCBTの構成やその実際の進め方などに関する講義、後半は参加者に数人単位でグループを組んでもらいロールプレイを行う予定である。

《定員》60名（事前申込みで先着順、当日参加は定員に空きがあるときのみ）

《参加費》学会参加費の他に、追加料金として2,000円が必要となります。

《講師略歴》

中山 秀紀
2000年 岩手医科大学医学部卒業
2004年 同大学院卒業
その後、岩手医科大学神経精神科助教、
盛岡市立病院精神科医長などを経て2010年より久里浜医療センターに勤務し、男性アルコール依存症病棟を担当し、現在に至る。



【講師】：中山 秀紀（久里浜医療センター 医師）

基礎講座

1月23日（金） 13:15～16:45

『正しく、新しく知ろうアルコール関連問題』

平成26年6月にアルコール健康障害対策基本法が施行されました。この法律は、アルコール健康障害の発生、進行及び再発の各段階に応じた防止対策を適切に実施するとともに、日常生活及び社会生活を円滑に営むことができるように支援することを目的としています。国、地方公共団体、国民、医師などそれぞれの立場でこの問題に取り組んでゆくことをうたっており、社会全体の課題としてアルコール健康障害、使用障害に取り組んで行く方向となってきました。

このような情勢の中、今回はアルコール使用障害という病気の診断と治療について学び、また、当事者への適切な関わり方、家族支援や社会資源のことなど、基本的な援助者として知っておくべきことを学んでいきたいと思えます。

【司 会】：三好 弘之（大阪保健福祉専門学校 精神保健福祉士）

吉岡 範通（田辺保健所 精神保健福祉士）

【講 師】：「アルコール使用障害の基礎知識」

幸地 芳朗（幸地クリニック 医師）

「アルコール関連問題ソーシャルワークの基礎知識」

佐古 恵利子（リカバリハウスいちご 精神保健福祉士）

*アルコール健康障害：アルコール依存症その他の多量飲酒、未成年者の飲酒、妊婦の飲酒等の不適切な飲酒の影響による心身の健康障害のこと。

*アルコール使用障害：平成26年5月に日本精神神経学会がアルコール依存症を改名し、この病名とした。

講演会

1月24日(土) 9:15~12:00

『アルコール依存症治療と回復について』

アルコール依存症が病気であるという認識はまだまだ薄い一方で、お酒で困っているご本人や家族はもちろんのこと、医療機関、福祉機関、行政機関、教育機関等々にいる多職種の方々、職場や地域の方々はとても多いと思います。

どのように関わればよいのかわからず、やみくもな対応をしてしまっていることがあります。この講演会は、「ご本人や家族の方々が回復への軌道にのるために知っておきたい治療と回復」を主題とした企画となっています。

専門クリニック、和歌山断酒道場、断酒会、AAの方々からのお話で構成し、(1)内科医のアプローチ(2)和歌山断酒道場の教えとは何か(3)断酒会活動とはどういうものなのか(4)AAの12のステップと伝統について、知ることができるものです。

幅広い方々を対象とした講演企画となりました。皆様のご参加をお待ちしております。

【司 会】: 小谷 陣(小谷クリニック 医師)

佐古 恵利子(リカバリハウスいちご 精神保健福祉士)

【講 師】: 「(アルコール依存症治療)内科医の立場から」
小谷 陣(小谷クリニック 医師)

「和歌山断酒道場における回復」

上村 千賀志(和歌山断酒道場 道場長)

「断酒会における回復」

古田 忠(大阪府断酒会)

「AAにおける回復」

AA 広報委員会メンバー

ワークショップ④

1月24日(土) 10:00~16:00

『動機付け面接法』

この学会では2011年度より3年連続、ミラーとロルニックの著書「動機づけ面接法」「面接法実践入門」(いずれも星和書店)の翻訳者の一人であり、全国各地で研修を担当しておられる後藤恵先生をお招きして、ワークショップを開いています。3回とも多数の申し込みをお断りしなければならないほど反響が大きく、「和歌山大会でもぜひ!」との要望に応え、お忙しい先生にご無理をお願いして4年連続の開催をすることとなりました。

目の前の患者さんや家族、他の支援者との関係などが思うようにいかず、相手を変えようとするほど、抵抗や否認の壁にぶつかって関係が膠着してしまう。これは、アルコール依存症の臨床にかぎらず、ほとんどの支援者が体験してきたところ。

人が変わってゆく過程を援助する技法として、いまや世界標準となっている「動機づけ面接法」。問題飲酒へのアプローチから生まれたこの面接法は、多くの治療者・支援者の効果的なコミュニケーション例の研究から、ミラーとロルニックによって理論的に整理され、まとめられました。

「直面化」中心だった依存症の治療に革命をもたらしたとも言われ、依存症治療だけでなく、精神科領域全般、内科領域での高血圧・糖尿病などの生活指導、虐待など福祉領域の困難事例への介入、さらに一般企業における教育など様々な領域で使用され、医療や福祉に従事する人にとっては、基本かつ必修の技法となっています。

「動機づけ面接法」は、原理はシンプルでも実際に習得するのは難しく、本年もロールプレイを充実させる予定です。初めての方は基本を学ぶために、これまで参加された方はスキルアップをめざすために、ぜひご参加ください。

《定員》60名(事前申込みで先着順、当日参加は定員に空きがあるときのみ)

《参加費》学会参加費の他に、追加料金として2,000円が必要となります。

《講師略歴》

後藤 恵

1985年京都府立医科大学卒業。

1991~1994年、ロンドン大学精神医学研究所にて、嗜癲行動科学専門医コースを修了し、そのほか家族療法・認知行動療法・地域医療・児童精神医療などを学ぶ。1994年高月病院アルコール病棟勤務。

1996年東京足立病院アルコール病棟等勤務。1999年より成増厚生病院急性期治療病棟・アルコール病棟勤務、2003年診療部長。翠会ヘルスケアグループ。精神医学研究所副所長。日本アルコール精神医学会評議員。日本アルコール薬物医学会評議員。



【講師】: 後藤 恵 (成増厚生病院 医師)

【司会】: 奥田 由子 (守山こころのクリニック・大津市保健所 臨床心理士)

分科会 1

1月24日(土) 9:15~12:00

『災害とアルコール問題』

3.11 東日本大震災から4年が経とうとしている。しかし、被災地の復興は遅々としているし、原発事故の起きた福島県では、漏出し続ける放射線物質、多発する若年者の甲状腺がん、県内外の避難者、風評被害と。今なお、災害が進行している。そして、3.11以後も、災害は発生し、2014年8月広島県土石流災害では多くの犠牲者を出し、災害派遣精神医療チーム(DPAT)が初めて活動することとなった。

さらに、33万人の死者が見込まれている南海トラフ地震は、今後30年以内に70%の確率で起こると言われている。

災害とアルコール問題には密接な関係があり、当学会では、これまでも重要な課題として位置づけ、分科会を設けてきた。

今回は、岩手県の断酒会員から被災当事者の体験、福島県の被災者支援、大阪における県外被災者支援、2011年、和歌山県を襲った台風12号における被災者支援、と多岐にわたる報告をしていただくことにした。

【司 会】: 野田 哲朗(大阪府立精神医療センター 医師)

武輪 真吾(リカバリハウスいちご 精神保健福祉士)

【話 題 提 供】: 佐々木 公哉(岩手県北断酒会 漁師)

米倉 一磨(NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会(KCN)相馬広域こころのケアセンター
精神科認定看護師)

山中 徹二(大阪人間科学大学 人間科学部社会福祉学科社会福祉士
・堺市チーフスクールソーシャルワーカー)

栗田 直嗣(和歌山県立こころの医療センター 精神保健福祉士)

分科会 2

1月24日(土) 9:15~12:00

『和歌山のアルコール医療を考える』

和歌山断酒道場があり、和歌山県断酒連合会を中心に自助グループの活動も各地域で盛んに開かれている和歌山県。反面、アルコール依存症治療に特化した専門医療機関や復帰施設はほとんどなく、入院による専門治療を受けるには大阪府のアルコール依存症専門病院まで足を延ばす必要があります。また退院後、和歌山の中部、南部から何時もかけて通院される方も珍しくはありません。

この分科会では、この機会に和歌山県でのアルコール医療についてこれまでと現状を改めて確認すると同時に、「これから」を考えたいと思います。

【司 会】: 和気 浩三 (新生会病院 医師)

岸田 寿一 (和歌浦病院 精神保健福祉士)

【話 題 提 供】: 吉岡 範通(田辺保健所 精神保健福祉士)

山下 智也(潮岬病院 精神保健福祉士)

岸田 寿一(和歌浦病院 精神保健福祉士)

【指 定 発 言】: 植松 直道 (植松クリニック 医師)

分科会 3

1月24日（土） 9:15～12:00

『処方薬依存をめぐって』

ベンゾジアゼピン系の薬剤に依存性があるということは、ほとんどの医療者が知っていながら、現実には十分な注意を払っているとは言い難い状況ではないでしょうか。厚生労働省もその使用量等について注意を促しており、実際に、依存症治療の場に処方薬依存を訴える人が増加しています。

この分科会では、救急場面（大量服薬）を契機とした対処、今年度の診療報酬改定と多剤処方の問題、また日常診療で依存を作らないための工夫など、様々な観点から処方薬依存について考えます。

【司 会】：波床将材（京都市こころの健康増進センター 医師）

【話 題 提 供】：川田 晃（川田クリニック 医師）

東 睦広（和歌山日赤医療センター 医師）

廣兼元太（広兼医院 医師）

分科会 4

1月24日(土) 9:15~12:00

『みんなで考えよらよ～家族支援!』

アディクション問題を持つ人の家族は、相談機関に繋がるまでには数年以上を要し、「どう関われば?どこに相談すれば?これからどうなるの?」と深く悩みながら、日々過ごされています。和歌山だけでなくアルコール専門医療機関が数少ない地域では、なかなか専門医療機関に繋がる事が難しい現状もあり、様々な機関においてアディクション問題を持つ家族への支援が行われています。家族がより早く相談できるには様々な機関の連携が重要であると考えています。分科会では4名の方のお話と、参加者の皆様のグループワークを通して日々の家族支援について互いに考え、学ぶ機会にしたいと思っています。気軽に覗いてみてください!

【司 会】:尾崎 裕美(御坊保健所 保健福祉課 保健師)

長島 隆(和歌山県 障害福祉課 こころの健康推進班 班長)

【講師、話題提供者】:「アディクション問題を持つ人の家族支援」
講師;橋本直子(福井県立大学、精神保健福祉士)

「家族としての体験談」
体験談;福田 和美(紀南新生断酒会 家族)

岡畑 康栄(紀南新生断酒会 家族)

「クロスアディクションを持つ本人と家族との面接を通して」
事例提供;川村 ゆり(社会福祉法人 一麦会 サポートセンター
「麦の郷」精神保健福祉士(社会福祉士、介護福祉士))

分科会 5

1月24日(土) 9:15~12:00

『就労を含めて、依存症の人々の多様な生活課題を探る』

医療機関・自助グループ・行政の連携によって「病気」は「回復可能なもの」と言われている。しかし、断酒を続けていても、就労への課題など多くの問題を私たちは目にしている。

例えば、就労後の問題として

- ① 職場での人間関係の構築・依存症の問題をオープンにしているか？していなければ「飲酒社会」の中で歓送迎会などへの対処の問題
- ② アルコール依存症を抱える人々は、真面目で、なかなか自分の気持ちを上手に言い出せない方も多く、生活リズム(職場環境に合わせた時間と断酒の為のリズム)を作っていたとしても、仕事を始めると自分は後回しにして仕事を優先してしまいがちな中で自助グループへ出席し続けること
- ③ 経済的な問題点として、通院医療費や税金・年金・保険への出費と正社員雇用が困難な状況の中で生活保護を切ることの難しさ

上記を含む課題や問題を含む生活と就労ニーズがある中で、どのように個人を尊重しながら、対応していくのか？

自助グループや医療との連携、施設の経過等を踏まえ、問題への取り組みと今後の課題について語って頂き、共通認識を探っていきたいと思う。

【司 会】：釜ヶ崎ストロームの家

リカバリハウスいちご

【話 題 提 供 者】：田島 巳喜雄(特定非営利活動法人 大阪マック 施設長)

小原 茂博(大阪自彊館 愛隣寮 ケアスタッフ)

井上 亜矢子(特定非営利活動法人 いちごの会
リカバリハウスいちご 精神保健福祉士)

大垣 賢介(社会福祉法人 筍憩会(しゅんけいかい)
障がい者総合社会復帰施設 あるぺじお 所長)

ランチオンセミナー

1月24日(土) 12:00~13:00

共催：日本新薬

『アルコール中毒-アルコール依存症-アルコール症-アルコール使用障害
: 診断概念と治療の変遷』

講師： 齋藤 利和 (札幌医科大学 名誉教授 幹メンタルクリニック 医師)

座長： 辻本 士郎 (ひがし布施クリニック 医師)

【講師紹介】

《現職》 医療法人 北仁会 専務理事、北仁会 幹メンタルクリニック院長

北海道公立大学法人 札幌医科大学 名誉教授

《主要な所属学会》

国際アルコール医学生物学会 (ISBRA) : 元理事長	日本アルコール・薬物医学会 : 理事長
国際神経精神薬理学会 (CINP) : 副理事長	日本依存神経精神科学会 : 理事長
アルコール医学生物学研究会 : 運営委員	日本アルコール関連問題学会 : 理事
日本精神神経学会 : 理事、専門医	日本神経精神薬理学会 : 監事
日本精神科診断学会 : 理事	日本不安障害学会 : 理事
日本統合失調症学会 : 理事	日本生物学的精神医学会 : 評議員
日本総合病院精神医学会 : 評議員	日本臨床精神薬理学会 : 評議員
日本うつ病学会 : 評議員	北海道精神神経学会 : 幹事
日本神経化学会 : 評議員	日本薬理学会会員 : 評議員
米国神経科学会 : 会員	米国アルコール学会 (RSA) : 会員
世界生物学的精神医学会 (WFSBP) : 会員	生物学的マーカー研究委員会 副委員長
嗜癮研究委員会 委員	

《主要な公的活動》

北海道地方精神保健審議会委員 (会長)

ポスターセッション

掲示
口頭発表

1月24日(土) 10:00~16:00
1月24日(土) 13:00~14:00

1. 発表内容
 - ①テーマ:『地域におけるネットワークの構築』
各機関や団体等の、地域におけるネットワークの構築についての取り組みや事例紹介など

 - ②その他のテーマ(自由)
アルコール関連問題に関する研究発表、活動報告、医療成績、施設やプログラムの紹介など

2. 発表者 医師、看護師、保健師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、当事者、その他の関係者などで、今回の学会に参加登録をされる方。

公開講座

1月24日(土) 14:10~16:40

『基本法推進の集い I N和歌山 (市民公開講座)』

『紀の国、和歌山で抜けよう、アルコール健康障害対策基本法』

2013年12月にアルコール健康障害対策基本法が制定され、2014年6月に施行され、内閣府では関係者会議を開催しています。また、昨年11月10日から16日のアルコール関連問題啓発週間において「アルコール関連の問題について知ってる？本当にぜんぶ知ってる？」を広く国民に訴えました。しかし、この法律についてまだまだ知らない人も多くいます。また、アルコール健康障害を減らし、アルコール関連問題をなくすことは国の施策だけでは進みません。関係者会議の報告書が出る2年先まで待てません。鳥取県では昨年度から啓発週間だけでなく全県をあげてアルコール健康障害対策に取り組みだしました。私たちは、和歌山で基本法の理念を生かし実効性のあるものにするためには多くの連携が必要です。当事者の体験談を聞くなかで、アルコール依存症者を作らないために、またアルコール依存症者の未受診者を少なくするために何をすべきかを議論したいと思います。

【司 会】：辻本 士郎(ひがし布施クリニック 医師)
太田 順子(和歌山県精神保健福祉センター 精神保健福祉士)

【開会のあいさつ】：

【基 調 講 演】：今成 知美(ASK代表 アル法ネット事務局長)

【絵 本 朗 読】：プルスアルハ

【体 験 談】：和歌山県断酒連合会家族
和歌山県断酒連合会本人
和歌山県断酒連合会アメシストなど

【シンポジウム】：(予定)

【閉会のあいさつ】：

【基調講演講師紹介】



今成 知美
ASK (アルコール薬物問題全国市民協会) 代表。
アスク・ヒューマン・ケア代表取締役。雑誌「Be」編集長
TRUE COLORS JAPAN 認定ファシリテーター

この度のアルコール健康障害対策基本法の成立には、アル法ネット(現在アルコール健康障害対策基本法推進ネットワーク)の事務局長として、大活躍されました。基本法制定の立役者であり、今も関係者会議の委員として基本法の推進の中心となり活躍中されています。私たちが何をすべきかなどをお話いただけたと思います。

※公開講座のみ参加の方は参加費は無料です。

参加お申込み案内

参加費について

- 事前申し込み：大会参加費：3,000円（個人会員：2,000円）
ワークショップ参加費：2,000円（当日窓口にて徴収します）
懇親会参加費：5,000円
- 当日申し込み：大会参加費：4,000円（個人会員：3,000円）

※1/24 午後の公開講座のみに参加される方の参加費は無料です。事前申し込みも必要ありませんので、当日会場にお越しください。なお、その場合は他の講座や分科会への参加はできませんのでご了承ください。

参加申し込み方法

- 同封のFAX専用申し込み用紙に必要事項をご記入の上、12月20日（土）までに下記宛にFAXにてお申し込みください。

FAX送信先：0725-53-1224 新生会病院 和歌山大会事務局

※申し込み用紙はお一人様に付き1枚お使いください。複数名でのお申し込みの場合、用紙をコピーしてお使いください。

※申し込み用紙の記入について

①連絡先

連絡先記入欄の「所属 自宅」欄へのチェックをお忘れなくお願いします。チェックが判別できない場合は、郵便物の宛先をご所属先とさせていただきますのでご承知おきください。

②大会参加申し込み

参加をご希望されるワークショップ・分科会へのチェックをお忘れなくお願いします。なおワークショップ・分科会のご希望は先着順に決定致します。定員の都合でご希望にそえない場合は事務局よりご連絡差し上げます。また、ランチョンセミナーについては当日に配布する整理券にて受付いたします。

※締切日以降のお申し込みは当日申し込みの扱いとなり、大会当日に受付でお申し込みいただくこととなりますのでご注意ください。

- 申込書をFAXにてご送信後、学会参加費、懇親会費を下記までお振込みください。

※複数の方がまとめてお振込みされる場合は、申込書と共に振込み内容連絡票もFAX送信をお願い致します。振込み内容連絡票が無い場合は入金の確認が遅れることがありますのでご注意ください。

※振込手数料は各自ご負担くださいますようお願いいたします。

※ワークショップの参加費は当日に現金にて徴収いたしますので、お振込みにならないようお願いいたします。

※一度お振込みいただいた参加費は返金できませんのでご了承ください。

振込先：ゆうちょ銀行 口座名：関西アルコール関連問題学会 預金種目：普通預金
ゆうちょ銀行からご入金の場合→記号：14180 番号：61191851
ゆうちょ銀行以外からご入金の場合→店名：四一八（ヨイチハチ） 店番：418
口座番号6119185

- 参加費のお振込みが確認でき次第、参加証を送付いたします。参加証は大会当日にご持参ください。

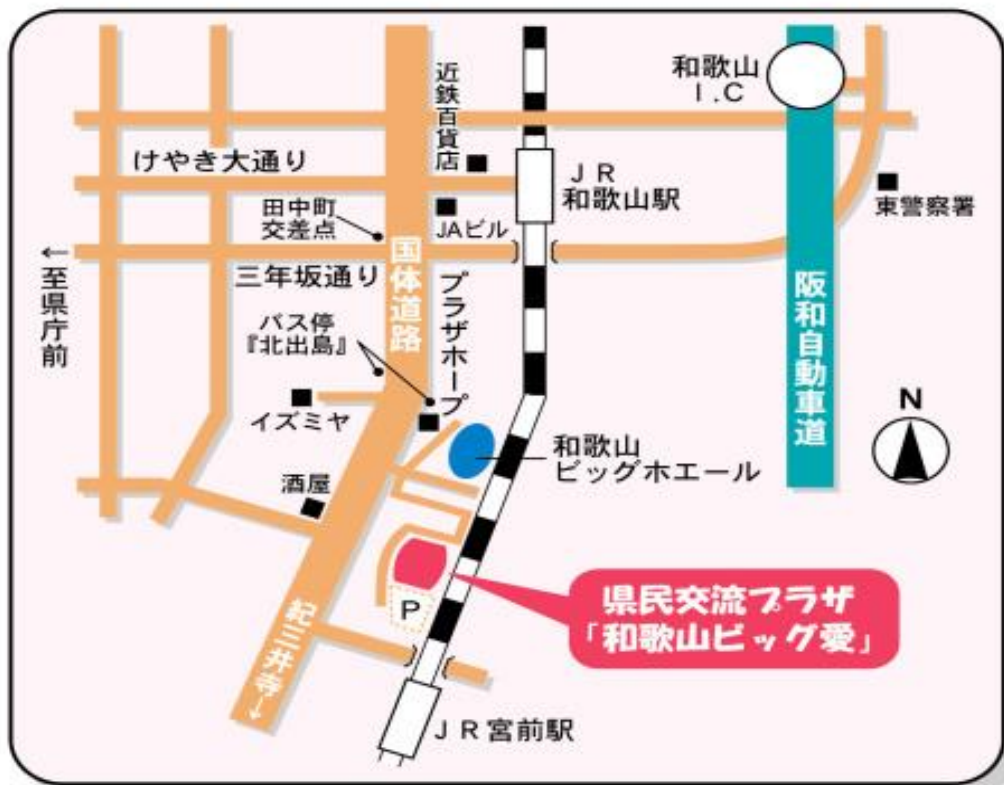
■事前申し込みなしのご参加も可能ですが、ご希望の分科会に参加出来ない場合がございます。出来るだけ事前にお申し込みされることをお勧めします。なお、ワークショップは当日の受付は空きがある場合のみとなりますので、ご注意ください。

- お申し込み方法等についてのお問い合わせは、新生会病院（TEL0725-53-1222）までお願いいたします。

会場へのアクセス

和歌山ビッグ愛

〒640 - 8319 和歌山市手平 2 丁目 1 - 2 (TEL 073 - 435 - 5200)



○鉄道の場合

- ・大阪、天王寺駅から J R 阪和線で和歌山へ 約 55 分
- ・大阪、なんば駅から南海本線で和歌山市駅へ 約 55 分
- ・新大阪駅から J R 特急で和歌山駅へ 約 60 分
(J R 和歌山駅から徒歩約 15 分)

○バスの場合

- ・関西国際空港からリムジンバスで J R 和歌山駅へ 約 40 分
- ・ J R 和歌山駅から和歌山バスで北出島へ 約 5 分
 新手平経由南海藤白浜行き又はマリーナシティー、
 又は医大病院行き 約 5 分
- ・南海和歌山市駅から和歌山バスで北出島へ 約 20 分
 ぶらくり丁、和歌山駅経由南海藤白浜行き
 又はマリーナシティー行き、又は医大病院行き

○お車の場合

- ・大阪方面から阪和自動車道で 約 60 分
- ・阪和自動車道と和歌山 I C から 約 15 分
- ・ J R 和歌山駅からタクシー利用で 約 15 分
- ・南海和歌山市駅からタクシー利用で 約 20 分

第 21 回関西アルコール関連問題学会 和歌山大会 実行委員名簿(50 音順)

麻生 克郎(垂水病院)	阿部 尚史(新生会病院)
磯崎 朱里(田村病院)	井上 亜矢子 (リカバリハウスいちご)
植松 直道(植松クリニック)	大本 淳(八木植松クリニック)
太田 順子(和歌山県精神保健福祉センター)	太田 靖(奈良県精神保健福祉センター)
太田 裕美(ひがし布施クリニック)	奥田 由子(守山こころのクリニック・大津市保健所)
*小野 善郎(和歌山県精神保健福祉センター)	川田 晃(川田クリニック)
川村 ゆり(社会福祉法人一麦会)	岸田 寿一(和歌浦病院)
小谷 陣(小谷クリニック)	佐久間 篤(ちぬが丘保健センター)
佐古 恵利子(リカバリハウスいちご)	笹川 智司(奈良市保健所)
佐々木 啓太(新生会病院)	千貫 悟(滋賀県立精神医療センター)
**辻本 士郎(ひがし布施クリニック)	殿村 壽敏(小谷クリニック)
中川 浩二(和歌山県障害福祉課)	永井 義雄(堺市こころの健康センター)
根来 千穂(オラシオン)	野澤 尚子(ひがし布施クリニック)
野田 哲朗(大阪府立精神医療センター)	波床 将材(京都市こころの健康増進センター)
濱川 浩(滋賀県立精神医療センター)	平田 和子(ひがし布施クリニック)
廣兼 元太(広兼医院)	松永 知行(垂水病院)
三好 弘之(大阪保健福祉専門学校)	山下 尚美(小谷クリニック)
山本 哲也(小谷クリニック)	吉岡 範通(田辺保健所)
和気 浩三(新生会病院)	渡辺 孝弘(新生会病院)
和中 詩(和歌浦病院)	

*…関西アルコール関連問題学会 和歌山大会大会長
**…関西アルコール関連問題学会会長

第 21 回 関西アルコール関連問題学会 和歌山大会

参加申し込み書

送信先：0725-53-1224

新生会病院 和歌山大会事務局 宛
大阪府和泉市松尾寺町 113

TEL0725-53-1222 FAX0725-53-1224

送信票等をつけずに送信してください。

お申し込み期限：12月20日（土）

お申し込み日：平成 26 年 月 日

※下記にご記入の上、必ず FAX でお送りください/お一人様につき 1 枚ご使用ください/コピー可

※個人での申し込みの方も振込み内容連絡票を添えて FAX して下さい

フリガナ

氏名：_____（事務局記入欄 No. _____）

所属（勤務先）：_____ 職種 _____

連絡先： 所属 自宅（参加証等の送付先となりますのでチェックをいれてください）

住所（〒 _____）_____

TEL _____ FAX _____

メールアドレス _____

申し込み内容（下記の にチェックをいれてください）

ご記入いただいた個人情報につきましては、
本大会参加受付以外の目的では使用しません。

大会参加申し込み

参加を希望されるワークショップ・分科会・講座にチェックをいれてください
なお、会場の都合でご希望に添えない場合がございますのでご了承ください

関西アルコール関連問題学会の個人会員

1月23日（金）

10:00～17:00 ※先着 60 名 参加費 2,000 円を当日に別途徴収

ワークショップ①『CRAFT ワークショップ』

13:00～17:00 ※先着 60 名 参加費 2,000 円を当日に別途徴収

ワークショップ②『ブリーフ・インターベンション&HAPPY プログラム』

14:00～17:00 ※先着 60 名 参加費 2,000 円を当日に別途徴収

ワークショップ③『久里浜医療センターにおける新しい認知行動療法』

13:15～16:45

基礎講座 『正しく、新しく知ろうアルコール関連障害』

18:45～20:45

懇親会

1月24日（土）

9:15～12:00

講演会 『アルコール依存症治療と回復について』

第 1 分科会 『災害とアルコール問題』

第 2 分科会 『和歌山のアルコール医療を考える』

第 3 分科会 『処方薬依存をめぐって』

第 4 分科会 『みんなで考えよう！～家族支援！』

第 5 分科会 『就労を含めて、依存症の人々の多様な生活課題を探る』

10:00～16:00

ワークショップ④『動機付け面接』 ※先着 60 名 参加費 2,000 円を当日に別途徴収

14:10～16:40

公開講座『基本法推進の集い I N 和歌山紀の国、和歌山で抜けよう、アルコール健康障害対策基本法』

※公開講座のみの参加は無料です

第 21 回 関西アルコール関連問題学会 和歌山大会 (振込み内容連絡票)

■ 送信先:0725-53-1224

新生会病院 医療福祉相談室 宛
大阪府和泉市松尾寺町 113

TEL 0725-53-1222 FAX 0725-53-1224

送信票等をつけずに送信してください
申込期限: 月 日

お申し込み日: 年 月 日

振込名義

	参加者名	学会参加費	懇親会参加	合計金額
1		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
2		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
3		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
4		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
5		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
6		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
7		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
8		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
9		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
10		<input type="checkbox"/> ¥3000 <input type="checkbox"/> ¥2000【個人会員】	<input type="checkbox"/> ¥5000	¥
				¥

※個人会員様の学会参加費は¥2000となります。